

レクリエーション資格の取得意識に関する調査研究

○山田力也¹・土井眞信²・金崎良三³・堤公一⁴・池田孝博²・田崎伸子⁵・滝口真¹
 (¹西九州大学 ²佐賀短期大学 ³佐賀大学 ⁴九州龍谷短期大学 ⁵西九州大学福祉医療専門学校)

1. はじめに

現在、(財)日本レクリエーション協会(以下、「日本レク協会」と略す)の公認指導者資格の養成形態には、主に都道府県協会主導のカリキュラム(講習会など)による一般養成と、大学、短大、専門学校などの高等教育機関で、日本レク協会が定めるカリキュラムを開講し、認定を受けた、日本レク協会公認指導者養成課程認定校(以下、「認定校」と略す)によるものがある(古田ら2003)。平成17年度における認定校は、全国412校、473講座にのぼる(ニュースレター26号、2005)。

市河(2001)は、日本レク協会公認指導者資格(以下、「レク資格」と略す)取得方法の違いは、取得後の指導行動に関係しており、一般養成の方が、レクリエーション活動を積極的に言い、自己開発や自己啓発につなげているのに対して、認定校では、卒業後の就職などに対して資格取得を有利に利用しようとする傾向があることを指摘している。近年、日本レク協会では、資格の更新率の低さが問題となっており、有資格者フォローアップの取り組みがなされている。絶対的なデータではないものの、その多くが認定校で養成された有資格者と推測されている^{註1)}。

この更新率低迷の背景には、取得時と更新時の地理的条件、更新制度、認定校における養成教育の内容など、学生を取り巻く様々な外的要因も考えられるが、学生自身の内面、意識についても目を向け、その上で有資格者の更新継続、活動活性化の問題について考えていく必要があるようにも思われる。これまで有資格者を対象とした、活動実態・意識などの調査は数多くなされてきたが、認定校の学生を対象としたものはあまりなされていない。

そこで、佐賀県レクリエーション公認指導者養成課程認定校連絡会(以下、「佐賀県認定校連絡会」と略す)では、同県レク協会が進めている、「有資格者サービス強化モデル事業」(平成15～17年度)とも連携を図りながら、認定校における教育内容と、資格取得後の活動支援充実を目的として、学生に関する意識調査を実施するに至った。

2. 研究の目的

本研究では、認定校でレク資格取得を希望する学生の意識を把握するべく、県内の課程認定校レク資格申請予定の学生を対象に、レク資格取得の動機や、満足度、そして取得後の活動に対する意識を明らかにし、認定校における養成教育のあり方、及び資格取得後の活動支援を充足させるための有効な手がかりを探ることを目的とする。

3. 調査の概要及び質問項目構造

1) 調査概要

調査は、佐賀県認定校連絡会に所属する7校(2大学、3短大、2専門学校)の資格申請予定者 371名を対象に、2004年11月～12月の期間に質問紙を用い各認定校が集合調査法、及び配表調査法によって実施した。

その結果、回収数は344部(回収率、92.7%)である。そのうち、本研究の分析に耐えうる有効回答数は318部(有効回答率、85.7%)であった。

2) 質問項目構造

(1) 基本的属性

基本的属性項目として、「年齢」、「性別」、「認定校種別」、「取得希望資格」、「レク以外の取得希望資格」、「現在及び卒業後の居住地」、「卒業後の進路」を設定した。

(2) レク資格取得(または関連科目受講)の動機及びその受講満足度

ここでは、学生の意識(=動機)を探るため次の要領で質問項目を設定した。市川(2001)は、学習動機について、「学習の功利性」と「学習内容の重要性」の2軸による次元化を試み、6つの志向(充実、訓練、実用、関係、自尊、報酬)を示した「学習動機の二要因モデル」を提示している。そこで、市川による学習動機を測定する質問項目全36項目から訓練志向を除いたものを参考に、「レク資格取得(または関連科目受講)の動機」に対する質問項目を15項目、「受講満足度」においては10項目を独自に作成し設定した。

(3) 今後の活動に対する意識

学生が、今後の活動に対してどのような意識を持っているのかを明らかにするため、日本レク協会が示す、有資格者の持つ2つの大きな志向(ニーズ)^{註2)}をはじめ、資格更新などを含む全15項目を設定した。

4. 結果及び考察

1) 基本的属性

今回の調査対象である、佐賀県認定校連絡会に所属する7校(2大学、3短大、2専門学校)の学生の基本的属性としては、まず、課程認定校種別では、短大所属の学生が132人(41.5%)と最も多くなっている。年齢は、平均が21.46歳(SD=3.44)。性別では、女性63.8%、男性36.2%であり、女性の割合が6割を超えている。取得希望資格としては、レクリエーション・インストラクター(以下、「インストラクター」と略す)資格のみの取得を希望する学生が250人(78.6%)と約8割を占め、福祉レクリエーション・ワーカー(以下、「福レク・ワーカー」と略す)資格と、インストラクター資格の両方を取得することを希望している学生65人(20.4%)を大きく上回っている。なお、福レク・ワーカー資格は単独で申請することことが可能であるにもかかわらず、単独取得希望者はわずか3人(1.0%)となっており、それぞれの資格の特性を理解した上での申請傾向が見られる(表1参照)。

表1. 基本的属性		N(%)
認定校種別	4年制大学	71 (25.5)
	短大	132 (41.5)
	専門学校	105 (33.0)
年齢	19歳	17 (5.3)
	20歳	153(48.2)
	21歳	40 (12.6)
	22歳	70 (22.0)
	23歳以上	38 (11.9)
	平均(SD)	21.46 (3.44)
性別	男性	115 (36.2)
	女性	203 (63.8)
取得希望資格	インストラクター	250 (78.6)
	福レク・ワーカー	3 (1.0)
	両方	65 (20.4)
	合計	318 (100.0)

2) レク資格取得(または関連科目受講)の動機及びその受講満足度

そもそも、学生はどのような意識(=動機)を持ってレク資格取得(または関連科目受講)をしようとしているのだろうか。そして、その動機を満たす満足度はどのようになっているのだろうか。ここでは、まず「レク資格取得(または関連科目受講)の動機」について、上述の通り、市川の学習動機を測定する質問項目を参考に15項目を設定し、それぞれに対する学生の意識(=動機)を「1. そう思う」から「5. そう思わない」の5件法によって訊ねた。さらに、その「受講満足度」についても、動機に対応する設問を10項目設定し、同様に5件法によって訊ねた。

(1) レク資格取得(または関連科目受講)の動機について

先ず動機の結果(表2参照)を見てみると、高い値を示した上位3項目は、「⑩学んだことを将来の仕事に生かしたいから 4.00(0.93)」、「⑩何かが出来るようになっていくことは楽しいから 3.96(0.99)」、「⑬勉強したことが人生で役立つから 3.93(0.99)」の順となっている。

これより、レク資格取得(または関連科目受講)の動機は、学んだこと(資格を持つこと)が自分を高めることになり、それを将来生かしたいという向上意識に満ちたものであることが示唆された。

これは、逆に、「⑦他の人より優れているという気持ちになれるから 2.25(1.08)」、「③友達が履修するといったから 2.38(1.14)」、「⑪良い成績で単位が取得できそうだから 2.57(0.95)」の値の低い項目により、更に明らかであり、そこには、他人の行動や成績・評価には関係なく、自らの教養や可能性を高めることを意識した上での動機であることが見て取れる。なお、この動機に関しては後ほど詳細に分析していくこととする。

	N=318
①新しい知識を知りたいという気持ちから	3.92(0.95)
②勉強しないと将来仕事上困るから	3.15(1.12)
③友達が履修するといったから	2.38(1.14)
④人並みにできないのは悔しいから	2.79(1.22)
⑤資格があれば条件の良い就職口が見つかるから	3.44(1.13)
⑥勉強しないと、親に申し訳ないから	2.88(1.27)
⑦他の人より優れているという気持ちになれるから	2.25(1.08)
⑧資格があれば社会に出て得なことが多いと思うから	3.66(1.04)
⑨学習することに充実感があるから	3.33(1.06)
⑩学んだことを将来の仕事に生かしたいから	4.00(0.93)
⑪良い成績で単位が取得できそうだから	2.57(0.95)
⑫何かが出来るようになっていくことは楽しいから	3.96(0.99)
⑬先生が魅力的だったから	2.75(1.12)
⑭資格を持っていた方が周囲の評価が高くなると思うから	3.02(1.17)
⑮勉強したことが人生で役立つから	3.93(0.99)
平均	3.20(0.58)
合計平均点	48.03(8.75)

	N=318
①新しい知識を得ることができた	4.30(0.74)
②勉強を終えて自信がもてた	3.51(0.81)
③学習したことが生活の上で役立った	3.36(0.91)
④レクの学習を通じて人間的に成長した	3.62(0.84)
⑤現場実習で地域・協会などと関わりを持つことが出来た	3.83(0.98)
⑥現場実習がよいアルバイトになった	2.42(1.25)
⑦現場実習を通じて、他校や地域の友人が出来た	2.92(1.25)
⑧学習内容・授業が楽しかった	3.81(1.02)
⑨学習したことを実習で生かすことが出来た	3.51(1.02)
⑩レクの資格が就職に活用できた	2.89(1.02)
平均	3.25(0.70)
合計平均点	32.54(6.99)

②受講後の満足度について

次に、受講後の満足度について(表3参照)見ていくことにする。

満足度で最も高い値を示したものは、「①新しい知識を得ることができた 4.30(0.74)」である。これは、前述の動機で高い値を示した向上意識が満たされた結果として見て取れる。むしろ、ここで注目されるのは、次に高い値を示した、「⑥現場実習で地域・協会などに関わりを持つことが出来た 3.81(1.02)」の項目であろう。この結果は、学びの場が大学内に止まりがちな通常の科目とは違い、現場実習をこなすことで得られた、地域社会で自分を生かすことが確認できたことが高い満足度として現れていると示唆された。

3) 今後の活動意識について

ここでは、学生が今後の活動についてどのような意識を持っているのかを明らかにするため、上述した通り、日本レク協会が示す、有資格者の持つ2つの大きな志向(ニーズ)をはじめ、フォローアップ研修や次回の資格更新などを含む全15項目を設定した。これらを、上記設問と同様に5件法によって訊ねたところ以下のような結果が得られた(表4参照)。

最も高い値を示したものは順に、「②職場での業務に生かしたい 4.10(0.90)」、「⑫卒業後、資格を生かすことを考えている 3.72(1.04)」、「①地域社会の中で活動してみたい 3.69(1.03)」となっている。これにより、取得した資格を生かすべく、どこかで活動していきたいという意識の強さが見て取れる。しかし、その活動の情報収集の媒体役を担う地元レク協会に対する意識「⑨佐賀県レク協会とのつながりを持ちたい 3.08(1.05)」の低さが明らかになり、有資格者への活動支援対策への有効な手がかりとして重要な示唆を与える結果が得られた。

表4. 今後の活動意識

	N=318
①地域社会の中で活動してみたい	3.69(1.03)
②職場での業務に生かしたい	4.10(0.90)
③さらにレクの教養を高めたい	3.47(1.07)
④人生を充実させるために生かしたい	3.47(1.06)
⑤フォローアップ研修があれば参加したい	3.24(1.08)
⑥レク活動の場に参加したい	3.62(1.02)
⑦レク活動の仲間作りがしたい	3.53(1.09)
⑧出身校(教員)とのつながりを持ち続けたい	3.49(1.08)
⑨佐賀県レク協会とのつながりを持ちたい	3.08(1.05)
⑩地元協会の活動に関する情報がほしい	3.35(1.10)
⑪ニュースポーツなど種目団体とのつながりを持ちたい	3.38(1.02)
⑫卒業後、資格を生かすことを考えている	3.72(1.04)
⑬次回に資格を更新する予定	3.52(1.07)
平均	3.57(0.73)
合計平均点	45.68(2.48)

4) レク資格取得(または関連科目受講)の動機に関する因子分析

ここでは、認定校でレク資格取得を希望する学生の意識をより詳細に検討していくため、5. 結果と考察の2)の(1)で取り上げた、レク資格取得(または関連科目受講)の動機を基に因子分析を試みた。固有値 1.0 以上の因子に最尤法による因子軸の斜交回転(プロマックス)を行ったところ、以下に示す4つの因子が抽出された。なお、全体の累積寄与率は 51.4%であった(表5参照)。

表5. レク資格取得(または関連科目受講)の動機に関する因子分析

	F1	F2	F3	F4	共通性
⑥学習することに充実感があるから	.835				.739
①新しい知識を知りたいという気持ちから	.697				.463
⑮勉強したことが人生で役立つから	.694				.562
⑫何かが出来るようになっていくことは楽しいから	.636				.396
⑩学んだことを将来の仕事に生かしたいから	.572				.483
⑦他の人より優れているという気持ちになれるから		.553			.545
⑪良い成績で単位が取得できそうだから		.553			.402
⑭資格を持っていた方が周囲の評価が高くなると思うから		.524			.547
⑤資格があれば条件の良い就職口が見つかるから			.670		.583
⑧資格があれば社会に出て得なことが多いと思うから			.634		.493
④人並みにできないのは悔しいから				.663	.532
②勉強しないと将来仕事上困るから				.536	.423

注) F1-F4に含まれなかった③⑥⑬は記載していない。

因子間相関	F1	F2	F3	F4
F1	—	.19	.37	.25
F2		—	.36	.35
F3			—	.44
F4				—

まず、第1因子は、項目⑨(.835)、①(.697)、⑮(.694)、⑫(.636)、⑩(.572)から構成されており、これらは、学生自身が自ら向上しようとする意識を意味していることから「内発的向上志向因子」と命名した。次に、第2因子は、項目⑦(.553)、⑪(.553)、⑭(.524)から構成されており、これらは、人より優れていることを意識する意味を成していることから「優越志向因子」と命名した。そして、第3因子は、項目⑤(.670)、⑧(.634)から構成されており、これらは、資格によって就職口など、何か具体的なものを得ようとする意識を意味していることから「功利志向因子」と命名した。最後の第4因子については、項目④(.663)、②(.536)から構成され、これらは、周囲との関係により何かをしなければならぬという意識をもつ意味を表していることから「外発的向上志向因子」と命名した。

引き続き、レク資格取得を希望する学生の意識から得られた4つの因子と満足度、取得後の活動に対する意識の各質問項目に着目し、それぞれの関係性を探るため、重回帰分析の手法等を用いながら詳細な検討を試みる。

5. 結果の要約

ここまでの結果、①レク資格取得(または関連科目受講)の意識(=動機)は、他人の行動や成績・評価には関係なく、学ぶこと(資格を持つこと)が自らの教養や可能性を高めることになり、それを将来生かしていこうとする向上意識がそのまま動機となっていることが示唆された。②受講後の満足度では、①で示された向上意識に対する高い満足度にあわせ、レク現場実習を経験することによって、地域社会で自分を生かし得ることが確認できたことが高い満足度として現れていることが示唆された。そして、③取得後の活動に対する意識からは、取得した資格を生かすべく、どこかで活動を継続していきたいという強い意識が見て取れた。しかし、その活動の情報収集の媒体役を担う地元レク協会に対する意識の低さが明らかになり、有資格者への活動支援対策への課題が挙げられた。以上より、「①動機」、「②満足度」、「③活動意識」が相互に高い関係性を有していることが明らかになった。

詳細な検討の第一段階として、④レク資格取得(または関連科目受講)の動機(=意識)要因として、「内発的向上志向因子」、「優越志向因子」、「功利志向因子」、「外発性向上志向因子」の4つが抽出された。

6. 謝辞

本研究を行うにあたり、佐賀県内の課程認定校の大谷久也(九州環境福祉医療専門学校)、井手一雄、吉村理英(佐賀女子短期大学)の各先生方、また7校の事務職員の皆様には多大なご協力を頂き誠にありがとうございました。また、佐賀県レクリエーション協会におかれましては、研究助成をいただきました。心よりお礼申し上げます。

注1) 日本レク協会の「平成16年度事業報告」によると、インストラクターの更新率は、全体で39.6%であり、一般養成による資格取得者が中心となる12月更新が、57.1%であるのに対して、認定校養成が中心となる6月更新では38.1%である。

注2) 日本レク協会は、有資格者への支援のあり方等を探るため、2003年9月に全国レベルのアンケート調査による実態調査を実施し、有資格者の持つ2つの大きな志向(ニーズ)を明らかにしている。一つ目は、地域でボランティア的に資格を活かして活躍したい“地域で活動したい”という「地域志向」のニーズ。二つ目として、高齢者福祉施設等による業務の中で資格を活かして活躍したい“仕事の中で資格を活かしたい”という「業務志向」のニーズである。

7. 参考引用文献

- ・古田洋一、天野勤、片山昭義：レクリエーション指導者の現状(指導者登録データから)、Leisure & Recreation(自由時間研究)26, pp.69-78, 2003.
- ・ニュースレター(第26号、2005.6)、日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校研究連絡会議
- ・市河勉：レクリエーション指導者の指導行動と資格取得効果について、松山東雲短期大学研究論集32, pp.151-155, 2001.
- ・市川伸一：学ぶ意欲の心理学、PHP新書, pp.46-61, 2001.
- ・松尾哲矢、谷口勇一、佐藤靖典：レクリエーション領域における資格取得とその任用に関する社会学的研究(その1) スポーツやレクリエーション資格の機能要件分析、Leisure & Recreation(自由時間研究)19, pp.100-115, 1996.
- ・池田孝博・土井眞信・金崎良三・山田力也・田崎伸子・堤公一：レクリエーション資格に関するイメージ分析、レジャー・レクリエーション学会大会号(投稿予定)、2005.